

buppan!! セミナー

AIコーディングの ワークフロー事例

case : 村瀬

2026.03.10 Tue

村瀬直人 | ECコンサルタント

今日のゴール



AIでLP制作の
全体像を理解



バイブコーディング
の実践方法を知る



自分のブランドに
即適用できる状態

今日の全体マップ

AI基本

商品マスターデータ
セクション分割生成

バイコーディング

ツール紹介
トンマナ設計

実装

画像キャプチャ
スキル・MCP

Google Stitch & Anti-Gravity

Google Stitch

画像やラフからWebページを生成

やれること :

- ・ チラシやスクショを読み込んでLP化
- ・ 複数のデザイン案を自動生成
- ・ 気に入った案のHTMLコードを出力
- ・ デザインの方向性を探るのに最適

Google Anti-Gravity

会話で指示してWebサイトを制作

やれること :

- ・ Stitchの出力HTMLを取り込んで編集
- ・ 「ここをこうして」でデザイン修正
- ・ AIがコードを書いて自動実装
- ・ ブラウザプレビューで確認しながら修正

AIエージェントツール

Google Anti-Gravity

Googleが開発したAIエージェント開発環境

やれること :

- ・ 会話ベースでWebサイト/LPを制作
- ・ 「ここをこうして」でデザイン修正
- ・ AIが自動でコードを書いて実装
- ・ ブラウザでプレビューしながら修正

→ 無料で使える / コード知識不要

Claude Code

Anthropicが開発したAIコーディングツール

やれること :

- ・ ターミナルから指示を出してLP制作
- ・ ファイル編集・デバッグも自動
- ・ 複雑なカスタマイズに強い
- ・ 既存サイトの修正・改善も得意

→ 中級者向け / より細かい制御が可能

デモ：チラシから10分で告知LPを作る

1

チラシを
Stitchに投入

画像を読み込むだけ

2

Stitchで
デザイン案を生成

複数案からHTMLを出力

3

Anti-Gravityで
告知LPとして仕上げ

編集・調整して完成

Stitch → **Anti-Gravity** の連携で、チラシ1枚から**LP**が完成

事例：3時間でホームページを構築

Stitch → Anti-Gravity → 仕組み化 の流れ

Phase 1 : HP制作 (約2~3時間)

1. Stitchにイメージを入れてデザイン案を作成
2. Anti-Gravityで各ページを構築
3. ページ間のリンク・導線をつなげる
4. AI画像生成で仮画像を配置

→ HP本体は約3時間で完成

Phase 2 : 仕組み化 (+2~3時間)

HPは更新作業が頻繁に発生する
→ 更新を簡略化する仕組みを構築

- ・ CMS的な更新管理の仕組み
- ・ スプレッドシート連携
- ・ AIで更新作業を簡略化

Claude codeであればHP制作だけでなく「運用の仕組み」までセットで作れた

事例：3時間でホームページ制作

Stitch → **Claude code(Anti-Gravity)** → 更新の仕組み化 まで約**5～6時間**

Phase 1 : HP制作 (約2～3時間)

1. Stitchにデザイン案を作らせる
2. 各ページの構成も生成
3. Anti-Gravityでページ同士を
リンクでつなげて構築
4. AI画像生成で仮ビジュアルを配置



Phase 2 : 更新の仕組み化 (+2～3時間)

- ・ CMS的な更新の仕組みを構築
- ・ スプレッドシート連携で
コンテンツ更新を簡略化
- ・ AIで更新作業を自動化
- ・ 頻繁な更新にも対応できる体制

HP制作だけでなく「運用の仕組み」まで一気に作れるのがAIコーディングの強み

AI活用の核心：書かせる前に理解させる

NG

いきなり「LP書いて」
→ 曖昧なコピーが出力

OK

商品を深く理解させる
→ 的確なコピーが出力

商品マスターデータの設計 = **AI**ライティングの土台




商品マスターデータ Botの仕組み






GEMO 【準備】 マスターデータ作成Bot

このGemは、LP制作の**「最上流」**に位置します。ここで完璧なデータを作れば、後の工程はすべてスムーズに進みます。

最近

-  真空パック機LP作成 商品情報ヒアリング
-  水切りラックのマスターデータ作成
-  商品マスターデータ作成のお手伝い

-  一問一答で商品情報をヒアリング
-  ジャンル別にスペックを自動提案
-  Markdown形式でデータ出力

Custom Gem / MyGPTs に登録して即利用可能

商品マスターデータの7ステップ

0

ジャンル確認

1

基本スペック

2

ターゲット

3

USP

4

五感情報

5

ベネフィット

6

信頼・法的

7

完了・出力

LP制作：セクション分割生成がコツ

NG

LP全体を一度に書かせる
→ 内容が薄くなる

OK

セクションごとに依頼
→ 各パーツの品質が高い

ファーストビュー

信頼性

ベネフィット

要点

レビュー

...比較 → 使用シーン → サイズ仕様 → Q&A

村瀬流：AI実務フロー（今回の実例）



目標：この作業を誰でもできるレベルまで落とし込みたい

セクションごとに詰める：具体例

ファーストビュー

静止画像だけでなく
アニメーションや動的
な
表現で目に留まる設計
に

ライティング修正

前後のつながり確認
文章のプレス（推敲）
何度も指示して精度UP

画像の指示

「どんな画像がいいか
」
をAIに聞く
→ プロンプトも生成

AI画像生成

画像プロンプトで
AI画像を生成し
LPに組み込む

写真がなくても、AIに「どんな画像がいいか」→「プロンプト生成」→「画像生成」で対応可能

トンマナ設計 → エージェント実装

自分のブランドのトンマナをAIに伝える

ブランドカラー・フォント・世界観・ターゲット層・価格帯を
エージェントに伝えることで、ブランドに沿ったLPを制作してくれる

通常の流れ

トンマナをエージェントに伝えてLP制作

ツール例：

- ・ Anti-Gravity
- ・ Claude Code

デザインから入る場合

Google Stitchでデザイン案を複数作成
→ ブランドに合う案のHTMLを出力
→ それをベースにエージェントで実装

見本がある方が再現性が高い

Shopify LP : 動きのあるセクション設計

Shopifyで売るなら、動きのあるセクションで「中だれ」を防ぐ
音楽と同じで、同じグループだと飽きる。意外性を作ることで最後まで見てもらえる

ヒーローセクション

アニメーションや動的表現でパッと目を引く。第一印象で離脱を防ぐ

中間セクション

セクションごとに違う動きを入れる。「なんだこれ？」と思わせる意外性が大事

情報量が多いセクション

カラバリ・事例など縦長になるコンテンツは横スクロール等で手軽に見せる

Claude Codeに「動きのあるセクション」「横スクロール」など抽象的な指示でもOK
クリエイティブな指示をAIに伝えて、案出しさせるのがポイント

アイコン制作 : Gemini Canvas活用

Claude Codeはアイコンが苦手 → Gemini Canvasで作るのがおすすめ
ツールの得意・不得意を見極めて使い分けるのがポイント

Claude Code (アイコン苦手)

- ・コードベースなのでデザイン系が弱い
- ・アイコン生成の品質が不安定
- ・イメージ通りのアイコンが出にくい

Gemini Canvas (おすすめ)

- ・「どんなアイコンを作りたいか」を明確に伝える
- ・イメージ通りのアイコンが出やすい
- ・DLまでの指示も一緒に出せる
- ・無料で使える

コードはClaude Code、デザイン系はGemini Canvasという使い分けが効率的

HTML/CSSで作る → 画像キャプチャ

1

HTML/CSSで
LPを作る

AIエージェントで制作



2

Claude codeで
画像キャプチャ

セクションごとに静止画化



3

モール商品ページに
画像を登録

縦に並べてLP化

画像になるため、アニメーションや動きのある表現は使えない。画像前提で設計すること。

Claude code のキャプチャ機能

Claude code 内でキャプチャスクリプトを作成
→自動で画像保存

「スキル」機能で自動化 → 次スライドで詳説

画像ルールを一度設定すれば2回目以降自動

LP画像の設計：3パターン

3840px 縦横最大

2MB 1枚あたり

20枚 スマホ目安

SP (スマホ)

PC

フリック画像

横幅 **680 px**

横幅 **1000 px**

横幅 **800~1000 px**

× 高さ3840pxまで
レスポンシブ対応で作成

× 高さ3840pxまで
レスポンシブ対応で作成

× 同じ高さ (正方形)
LP→正方形レイアウトに編集

LP画像のフォントサイズ設計

スマホで読めるサイズを基準に設定する

SP (スマホ)

横幅 **680 px**

見出し **42 px**

本文 **25 px**

PC

横幅 **960 px**

見出し **34 px**

本文 **20 px**

Claude Code 「スキル」機能 詳細

「スキル」とは？

AIエージェントに繰り返し使うルール・手順を記憶させる機能。
一度設定すれば、2回目以降は同じ条件で自動実行される。

1

初回：ルールを定義

画像サイズ・フォント
出力形式などを指示



2

スキルとして保存

Claude Codeが手順を学習
スキルに登録



3

2回目～：自動実行

同じルールで
即座にキャプチャ

例：「SP用 横680px セクション分割でキャプチャ」をスキル化 → 全商品に即適用

Figma MCPで微調整

MCP (Model Context Protocol) とは？

AIエージェントと外部ツールをつなぐ仕組み。
FigmaやGoogle DriveなどをAIから直接操作できるようになる。

Figma MCPでできること

- ・ Figma上のデザインをAIが読み取り
- ・ デザイン通りにコードを生成
- ・ 手動でデザイン編集も可能
- ・ 細かい微調整に最適

私の使い方

Vibe Codingで大枠を作成

↓

デザインがズレたときに
Figma MCPで微調整

→ 手動編集できるので作業が早い

明日からやる3つ

1

商品マスターデータを
1商品分だけ作る

Custom Gem / MyGPTs
で試してみる

2

バイブコーディング
で
LPを1つ作ってみる

Anti-Gravity or
Claude Codeで実践

3

画像キャプチャして
モールに登録

実際のワークフロー
を体験する

まず**1**商品だけで**OK!**

ご清聴ありがとうございました

村瀬直人 | ECコンサルタント